

謹賀 新年

vol. 130
2020.1.1

JAERA NEWS LETTER

一般社団法人日本自動車リサイクル機構 ニュースレター

□巻頭言 / 年頭所感・酒井代表メッセージ … P1 □関係機関の皆様より、年頭のご挨拶 … P2 □2019年度自動車リサイクル士講習会 総括編 … P3
□ブロック活動報告 / 地域ブロック長会議 / 東北ブロック会議 … P4 □関東ブロック会議 / 近畿ブロック会議 / 中部・北陸ブロック会議 … P5
□鉄スクラップ最新情報 … P6 □2020年度鉄スクラップ業界の見通し … P7 □行事予定 / お知らせ / 編集後記 … P8

年頭にあたって

令和二年 元旦

皆さま新年あけましておめでとうございます。

本年は令和として初めて迎える新しい年、干支もねずみ、十二支の初めの年です。まさに新しい時代の幕開けと言えるでしょう。年頭にあたり本年が会員の皆さまにとって健やかで幸多い年でありまよう、心からお祈り申し上げます。

さて昨年を振り返りますと、続けざまに来襲した台風や豪雨など、一昨年に続き自然の猛威を見せつけられた年でした。会員の中にも被災された方がおられ、ご苦労はいかばかりかと心が痛む思いです。一刻も早い復旧、回復をお祈り申し上げます。

また、世界的には廃プラスチック問題、特に海洋プラスチック問題が大きな議論になり、早急なプラゴミの減量が求められています。我々のリサイクル業界も、いわゆる中国ショックに端を発するダスト処理問題が経営の根幹を揺るがす状況でした。

この様な状況は今年も続くと考え、喫緊の課題として ASR 処理円滑化、さらに ASR 自体を減らすための取り組みが求められています。また次世代車の普及という市場環境の変化に対応したリユース、リビルト部品のさらなる活用は、我々の生き残りのための大きなテーマです。自動車リサイクル法15年目の見直しのタイミングでもあり、そのための議論は業界一体となり進めていきたいと考えております。

まさに変化が目前に迫っています。自動車リサイクル業界としてどう対応すべきかが問われている時です。また時代の変わり目は、ピンチにもチャンスにもなる時です。

一社では小さい力もまとまれば大きくなります。一社では解決できない問題も会員の皆様と一緒に取り組むことで、この変化を乗り越えることができます。

「ワンチーム」でこの変化の時代をチャンスとしていきましょう。

一社) 日本自動車リサイクル機構
代表理事 酒井 康雄



巻頭言

2020 年が始まりました。植物が循環する様子を表している十二支の1番目に「子」がきているように、子年を植物にたとえると新しい生命が種子の中にきざし始める時期で、新しい物事や運気のサイクルの始まる年になると考えられています。

今年、世界の注目はオリンピック・パラリンピック開催地である東京に集まり、社会は2030年の「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成を目指し動き始めています。

東京オリンピック・パラリンピックは言うまでもなく世界最大規模のイベントであり、その影響力は世界に広く及びます。環境や経済、社会面など幅広い領域において、持続可能性に配慮した大会運営が求められるのではないのでしょうか。

(広報部会 木村香奈子)

《編集・発行責任者》

一般社団法人日本自動車リサイクル機構
広報部会長 永田 則男

《お問い合わせ先》

一般社団法人日本自動車リサイクル機構
〒105-0004
東京都港区新橋3丁目2番2号
TEL: 03-3519-5181
FAX: 03-3597-5171
MAIL: jaera-homepage@elv.or.jp
HP: http://www.elv.or.jp/

関係機関の皆様より、年頭のご挨拶



経済産業省
製造産業局 自動車課
自動車リサイクル室長
藤岡 伸嘉 様

令和2年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。日本自動車リサイクル機構の皆様におかれましては、平素より適正な自動車リサイクルの推進に御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

自動車リサイクルについては、マテリアルリサイクルを含むリサイクルの高度化や次世代車に向けた対応準備が求められる状況となっております。自動車リサイクル法は本年で施行15年目の節目を迎えました。本年は、関係業界の御意見を賜りながらこれらの検討を重ねて参ります。皆様方の一層の御協力、御理解をよろしくお願いいたします。

貴機構会員各位の益々の御発展と御健勝を祈念いたしまして、新年の御挨拶とさせていただきます。



環境省 環境再生・資源循環局
総務課
リサイクル推進室長
富安健一郎 様

令和初の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。日本自動車リサイクル機構の皆様におかれましては、平素より自動車リサイクルの推進にご協力いただき、厚く御礼申し上げます。また、過年度は自然災害等も発生し、引き続き復興の途中ではありますが、ご尽力いただいておりますこと深く御礼申し上げます。

本年1月で、自動車リサイクル法は施行から15年を迎えます。これまで、本制度が安定的に運用されてきていることに感謝申し上げますとともに、自動車リサイクルの更なる発展に向けては、皆様方の一層のご協力が不可欠ですので、どうぞよろしくお願い申し上げます。皆様方の御健康と御多幸をお祈りして、年頭の御挨拶とさせていただきます。



公益財団法人
自動車リサイクル促進センター
専務理事
阿部 知和 様

謹んで新春のお慶びを申し上げます。日頃から弊財団の活動にご理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。貴機構におかれましては、組織名称を変更され、更なる発展を進められることに敬意を表します。

また、近年の自然災害に対しても迅速で組織的な取り組みを推進していただき、自動車リサイクルシステムの安定稼働に多大なるご協力を頂き大変感謝しております。

弊財団としましても、変化の激しい時代に対応すべく新たなテーマに取り組む所存でございます。

本年の皆様方の益々のご発展とご健勝を祈念致しますと共に、引き続きご指導ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い致します。



一般社団法人
自動車再資源化協力機構
代表理事
宮下 照雄 様

新年明けましておめでとうございます。平素よりフロン、エアバッグ類の適正処理へのご理解とご協力、厚く御礼申し上げます。

昨年は、全国を席卷した風水害で貴機構会員の皆さまにも多大な影響を及ぼしていると伺っております。

こうした自然災害に対する迅速且つ柔軟なご対応、また、時代の変革に対するリサイクルの高度化に向けたご尽力に深く敬意を表します。

当機構も皆さまと自動車メーカーを繋ぐパートナーとして、引き続き業界の改革に資する情報発信および推進活動に、より一層努めてまいります。貴機構の益々のご発展ならびに会員の皆さまのご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。



2019年10月～11月に、東京会場と盛岡会場の2会場にて開催いたしました。今年度も多くの受講者を募るため、自動車再資源化協力機構様のご協力を得て、全国の解体業者（約2,800社）へのFAXに加え、東日本の解体業者（約1,300社）へDMを送付し受講促進を図りました。

その結果、全受講者は116名、フォローアップ1名、合計117名。受講者の約半数の方が非会員からの受講となりました。また、自治体や関係団体からのオブザーバー参加8名、講師として国・関係団体・関係者18名にご協力を賜りました。

今年度の認定者は、全工程95名、引取・フロン工程19名、合計114名となり、これまでの有資格者948名加え累計1,064名となり、自動車リサイクル士制度を開始して7年目で1,000名を超える有資格者を生むことが出来ました。

次年度以降も一人でも多くの「自動車リサイクル士」有資格者を増やす活動に取り組みますので、これまでご協力・ご支援を賜りました国・関係団体・関係者の皆さまに感謝致しますと共に、引き続きのご支援・ご協力をお願い致します。

【受講者アンケート結果】

■日本自動車リサイクル機構を知っていたか否か。

⇒認知度：75%でした。

【オブザーバーアンケート結果】

■自動車リサイクル士認定証は、解体業許可／更新の際「十分な知見を有する者の証」として採用しているか否か。

①採用している。33.3%、②採用を検討している。33.3%、③採用してない。33.3%

地域ブロック長会議

12月10日（火）日本自動車リサイクル機構の会議室にて、「第3回地域ブロック長会議」を開催しました。当日は、全国の地域ブロック長、常任役員ら13名が参加しました。

まずはじめに、台風19号による被災自動車処理について、促進センターの呼びかけで経産省、環境省、各関係団体（総勢18名）と合同で11月29日に「被災車両の視察及び処理手間」などの現状確認を行ったこと、並びに東北ブロック会議で被災自動車処理の問題を整理された内容を一同で確認し、これらの課題を共有し「過去の教訓」に学び、対応策の仕組み作りなど今後の対応を確認しました。

引き続き、各地域ブロックの近況報告及び支部制の進捗報告がなされ、主な内容として①廃車ガラの引き取りの問題、②ゴミ混入の問題（自治体・警察などと共同でチラシによる注意喚起）③新規会員を増やすための工夫など意見がだされました。その後機構本部から活動報告、①日本自動車リサイクル部品協議会との合併協議の結果報告、②自動車リサイクル設計事例集の製作取組み、③2019年度自動車リサイクル士認定講習会の総括（東京会場、盛岡会場）、⑤自動車リサイクル法15年目の見直しの論点などの説明・意見交換が行われ、⑥団体（支部）設立状況についても確認を行い、2020年3月までの立上げを確認、最後にJVRサテライトセミナーを全員で視聴しました。次回の開催は、2020年3月の予定です。



東北ブロック会議

第3回東北ブロック会議は、12月3日（火）仙台MTビル貸会議室にて開催されました。各県の支部長・代表者、事務局並びに機構本部から酒井代表理事も参加されました。

最初に、酒井代表からこのたびの台風による被災された地域、会員の皆様への労い、日本自動車リサイクル部品協議会との合流に関する報告とご挨拶がありました。その後、東北ブロックにおける台風19号被害状況と課題や要望について意見交換・意見集約が行われました。

機構本部からの活動報告としては、①産構審・中環審 第47回合同会議の報告、②自動車リサイクル高度化財団の受託事業など7項目の取り組み状況の説明を行い、各県代表者との意見交換や近況報告がなされ、東北ブロック上半期の活動、下半期の計画について「自動車リサイクル士盛岡会場」の結果報告と振り返り、適正処理講習会の計画、次年度に向けた活動計画など、本部との情報共有・本部への要望など織り交ぜ活発な意見交換や論議が行われました。



関東ブロック会議

12月17日（水）日本自動車リサイクル機構の会議室にて、「第2回関東ブロック会議」を開催しました。

当日は、1都8県の各支部長・代表者・会員、本部からは酒井代表・木内副代表が参加し総勢19名の参加となりました。

最初に、酒井代表から台風19号による地域・会員の方の被害及び合流に関する結果報告を交えた挨拶が行われ、機構本部からは、今年度の活動報告①産構審・中環審 第47回合同会議の報告②日本自動車リサイクル部品協議会との合併協議結果の報告③自動車リサイクル法15年目の見直しに向けた経産省・環境省との意見交換報告④自動車リサイクル高度化財団の受託事業「自動車リサイクル設計事例集の製作」への取組⑤自動車リサイクル士認定講習会の結果報告などが行われました。

関東ブロックにおける近況報告及び支部制の移行について各支部長または代表者から説明があり、支部制は概ね順調に進捗していることを確認しました。地域が抱える課題としては、廃車ガラの受け入れ制限がある、または受け入れするが単価が安く仕切られることが多くなっているなどの意見交換がなされました。

近畿ブロック会議

第2回近畿ブロック会議は、11月14日大阪市内のエル大阪南館で開催されました。

当日は、2府3県の各支部長・各代表者、会員・事務局並びに本部から酒井代表理事、オブザーバーとして近畿経済産業局、近畿地方環境事務所の各担当官が参加されました。

最初に、酒井代表から自然災害による会員の被害状況及び日本自動車リサイクル部品協議会との合流に関する報告などの挨拶、次に機構本部の活動報告①産構審・中環審 第47回合同会議の報告②自動車リサイクル高度化財団の受託事業「自動車リサイクル設計事例集の製作」③支部制の取り組み状況などの報告が行われました。

その後、各支部長または代表者から人材不足の状況・外国人実習制度の活用・ASR処理状況などの情報交換が行われ、地域が抱える課題としてタイヤ処分、廃車内に生活ゴミの混入、ゴミの処分費も上がっており深刻な問題となっている。また、中古部品の問い合わせ減、売上減なども加速しているので、何らかの対策が必要と活発な意見交換がなされました。



中部・北陸ブロック会議

11月26日（火）、福井県の日本エコカ工業株式会社の会議室をお借りして「第2回中部・北陸ブロック会議」を開催いたしました。

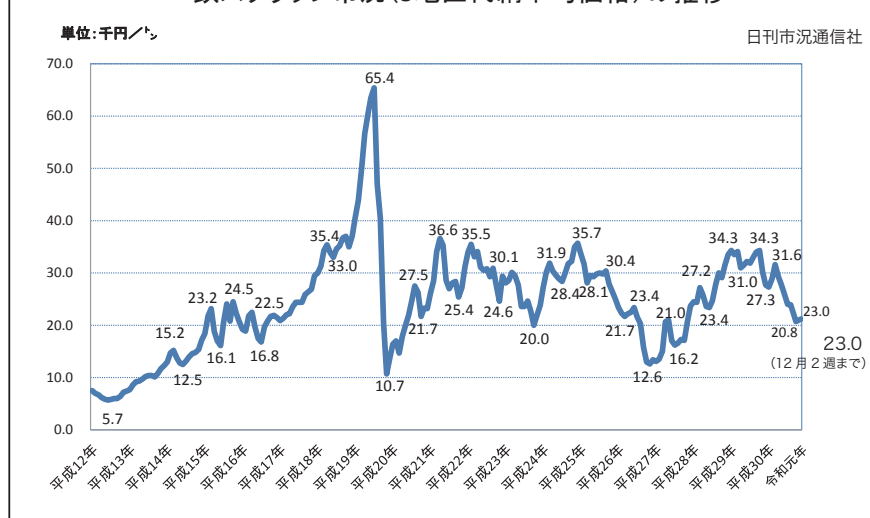
出席者は、会員各県代表者並びに会員以外の有）三田村興業様、日本エコカ工業(株)様からも参加いただき総勢12名となりました。

当日の内容は、機構の具体的な取組み、本部からの展開資料を説明、その後各地域の課題として「事故車・軽自動車・普通車の買取価格の現状」、「雑品くず問題」「廃車へのごみ混入」等と、各社の働き方改革の取組や機構組織に参加することのメリット等の話し合いがなされ、現状の自動車業界の課題や自動車リサイクル法を改めて考える機会にもなり、有意義な会議となりました。



12月第3週（20日）の鉄スクラップ動向

鉄スクラップ市況（5地区代納平均価格）の推移



12月20日の国内スクラップ炉前実勢価格（中心値）

		H2	気配
関東	北関東	24,500～25,000	堅調様子見
	南関東	24,500～25,000	堅調様子見
名古屋		23,000～25,000	堅調様子見
関西	大阪	24,500～25,500	堅調様子見
	姫路	24,000～25,000	堅調様子見

国内市場 需給緩和感なく堅調様子見

国内市場の鉄スクラップ市況は堅調様子見の推移を続けている。国内電炉各社は減産を実施し、鉄スクラップ需要量は減少しているものの、市中スクラップの発声・荷動きに勢いがいないため、各地区とも需給に緩和感が見られず、逆に一部電炉では実勢価格を引き上げて引き合いを強めているところもあるのが現状だ。国内相場は11月中旬から値上げ改定が広がり、前週末までに概ね2,000～3,000円値上がりしている。しかし4～11月の間の長い下げ相場の間に全国的に12,000～13,000円の大幅な値下がりとなっており、直近の値上がりは小幅なものにとどまっている。

ただ、海外市場ではトルコの米HMS輸入価格が1トあたりCFR300ドルどころに上伸し、10月初めの直近最安値からは75ドルどころの大幅な値上がりを見せている。国内需給にやや引き締め感が出ている状況の中、海外市場や輸出市場の動向によっては、国内相場に上げ余地が出て来る可能性がある。

【関東地区】 荷動き低調で電炉入荷にバラつき

関東地区では、市中スクラップの発生・荷動きが低調で、電炉筋の鉄スクラップ入荷にバラつきが出ている。電炉の生産水準自体は高くないが、この荷動きの低調感により電炉筋は引き合いを緩められない状況にあり、11月中旬頃から関東相場は上伸局面に転じ、その後も引き続き堅調な推移となっている。12月20日時点の関東市場のH2炉前実勢価格は24,500～25,000円中心。浜値は24,500～25,000円中心、高値25,500円。

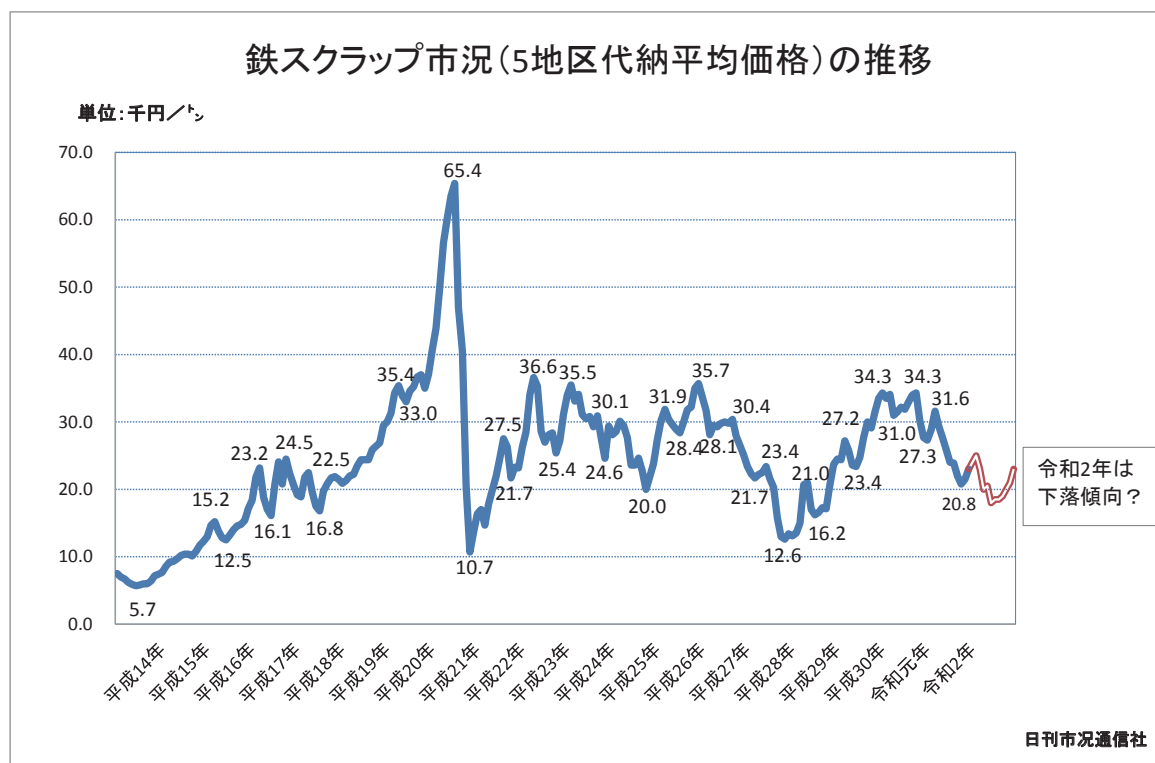
【東海地区】 電炉の様子見姿勢で市中相場は横ばい

名古屋電炉は12月第2週の後半（12日以降）にかけて500円がたの安値修正の動きを取った後は、目立った変化はなく様子見姿勢を続けている。鉄スクラップの発生状況は全般に鈍く、業者ヤードの在庫も少ない状況だが、海外市況の続伸に加え、国内市況にも先高観が残るため、業者間には出荷を急ぐ向きは見られない。12月20日時点のH2炉前実勢価格は23,000～24,000円中心、高値25,000円見当。

【関西地区】 域内市況は堅調、タイト感続き先高気配

大阪地区の鉄スクラップ市況は堅調様子見ムード。2019年内の実働日数を考慮しつつ、各社とも価格対応に慎重さを覗かせつつも、湾岸筋の引き合いや共同輸出船積みなど要因によって、電炉入荷は好転しづらい状況にある。こうした需給のタイト化を背景に、強基調を維持したまま12月下旬入りへ向かう公算が大きい。12月20日時点のH2炉前実勢価格は、大阪地区が24,500～25,500円中心、姫路地区が24,000～25,000円中心。

（※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、12月20日午前時点のもの）



2019年以上に上げ余地の少ない展開

2020年の国内の鉄スクラップ相場は、18,000～28,000円（炉前価格）の範囲で比較的に長めの期間での上昇および下落がある推移となりそうだ。2019年の終盤にかけては海外要因を中心に鉄スクラップ価格が上昇したが、2019年の長期間の下落による下げ幅は大きく、30,000円（同）には遠い状況にある。2020年も、劇的な社会の変化、経済状況の好転がない限り、鉄鋼製品の価格が大幅に上昇することは考えられず、従って原料の鉄スクラップも2019年以上に上げ余地の少ない展開となることが予想される。

ただ中国の内需は比較的堅調で、中国産の鋼材および半製品が中国外に大量に流出することは現在のところ考えにくい。米中貿易摩擦など懸念事項はあるが、中国の鋼材輸出は年間6000万トに達しないとみられ、年間の粗鋼生産累計が8～9億に達する最大の粗鋼生産国としては比較的少量にとどまっており、各国際市況に与える影響は比較的小さいとみられる。このため、日本の鉄スクラップ相場も、10,000円を下回るといった暴落が起こる可能性は低い。

日本鉄鋼連盟は「2020年度の鉄鋼需要見通し」を発表した。これによると、国土強靱化計画などで土木の需要は増加するが、消費増税による反動により住宅の伸びが期待できず、建築全体では前年割れの見通し。自動車や産業機械も前年度マイナスの見通しとなっている。これらを勘案すると、景気が大幅に改善することは考えにくく、鋼材の原料となる鉄スクラップ市況は全体的に見て2019年に比べて低水準にとどまる可能性が高い。

(当記事はあくまで日刊市況通信社のひとつの見解です。記載情報によって生じたいかなる損害についても日刊市況通信社および日本自動車リサイクル機構は一切の責任を負いません。)

行事予定

一令和二年 1 月の主な行事予定一

■1月7日(火)

自動車工業団体新春賀詞交歓会

■1月8日(水)

日本鉄リサイクル工業会賀詞交歓会

■1月15日(水)

第10回 広報部会

4 法人意見交換会

■1月16日(木)

第8回常任役員会

■1月22日(水)

自動車リサイクル部品団体賀詞交歓会

お知らせ

自動車再資源化協力機構からのお願い

フロン類回収業者の皆さまへ

平素はフロン類回収業務にご協力賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、このたびボンベ / パレットの運搬業者が、**2020年1月から日本通運(株)**に変更となります。つきましては、下記の事項をご留意いただき、集荷手配いただきますようご協力お願いいたします。

1. 集荷可能日

■「集荷可能日」は、集荷依頼日の**3営業日目以降**となります。

■WEB・TEL・FAX いずれの集荷依頼でも集荷依頼日から集荷可能日までの日数は同じです。

	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
通常週	(依)			(集)								
		(依)			(集)							
			(依)					(集)				
				(依)					(集)			
					(依)					(集)		
						(依)					(集)	
							(依)					(集)

(依) = 集荷依頼日

(集) = 集荷可能日

2. WEB集荷について

■集荷希望日は3日後から選択できます。

水・木・金に集荷依頼をする場合は、**集荷可能日に注意**して下さい。

■2020年からWEB集荷時には、「指定なし」、または「13時～17時」となります。

3. 集荷受付窓口 (※連絡先に変更はございません。)

■年始の営業は、1/6(月)9:00からとなります。

■2020年1月以降も引き続きWEBもしくはTEL・FAXで集荷依頼を承りますが、**営業時間に一部変更**がございますので、ご注意ください。 営業時間 9:00～17:30(土曜・日曜・祝祭日 休み) TEL: 0120-260-994 FAX: 0120-260-995

詳しくは、自動車再資源化協力機構ホームページ (<http://www.jarp.org/>) をご覧下さい。

編集後記

明けましておめでとうございます。皆さまにおかれましては、良いお正月を迎えられたことと思います。今年は東京オリンピック・パラリンピックというビッグイベントも控え、日本が世界各国から注目される一年となりそうです。

さて私の住む東北では、例年になく雪の少ない日が続いております。日常生活は過ごしやすいいえ、例えばスキー場など雪が降らないと困る業界もあるわけです。私の子供の頃は、冬時期となると雪の少ない平野部でも、一晩で膝上くらいまで雪が積もりました。しかも連日の降雪で根雪となり、春がやって来るまで街はすっかりと雪で覆われていたものです。しかし、それも今では遠い昔の思い出話となってきました。地球温暖化の影響なのか、雪が降っても日中には溶けてしまい、なかなか積もることがありません。こうした季節の変動に対し危機感を感じるのは私だけではないと思います。ここのところ毎年のように起こる大規模な自然災害もしく、いま世界規模で気候変動が取り沙汰されています。今年はこうした温暖化や環境問題についても着目してゆきたいものです。

(広報部会 部会長 永田 則男)